

# 事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分「一部、令和7年度分を含む」)

静岡県立静岡聴覚特別支援学校

## 目次

1	事務事業に関すること	
(1)	事務事業の概要	1
(2)	事務執行の根拠法令調	19
(3)	学校施設の概要	20
(4)	在籍生徒調	22
(5)	卒業生の動向調	23
(6)	生徒の状況	23
2	職員に関すること	
(1)	職員調	25
(2)	職員の年齢調	27
(3)	健康管理	28
3	予算の総括に関すること	
(1)	預金調	29
(2)	郵券等受払調	29
(3)	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	30
4	補助金等に関すること	
(1)	委託料に関する調	32
(2)	負担金支出調	34
5	財産に関すること	
(1)	公有財産調	35
(2)	借地借家等調	37
(3)	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	38
(4)	行政財産貸付・使用許可調	39
(5)	主要備品調	41

## 事務事業の概要

### 1 概況

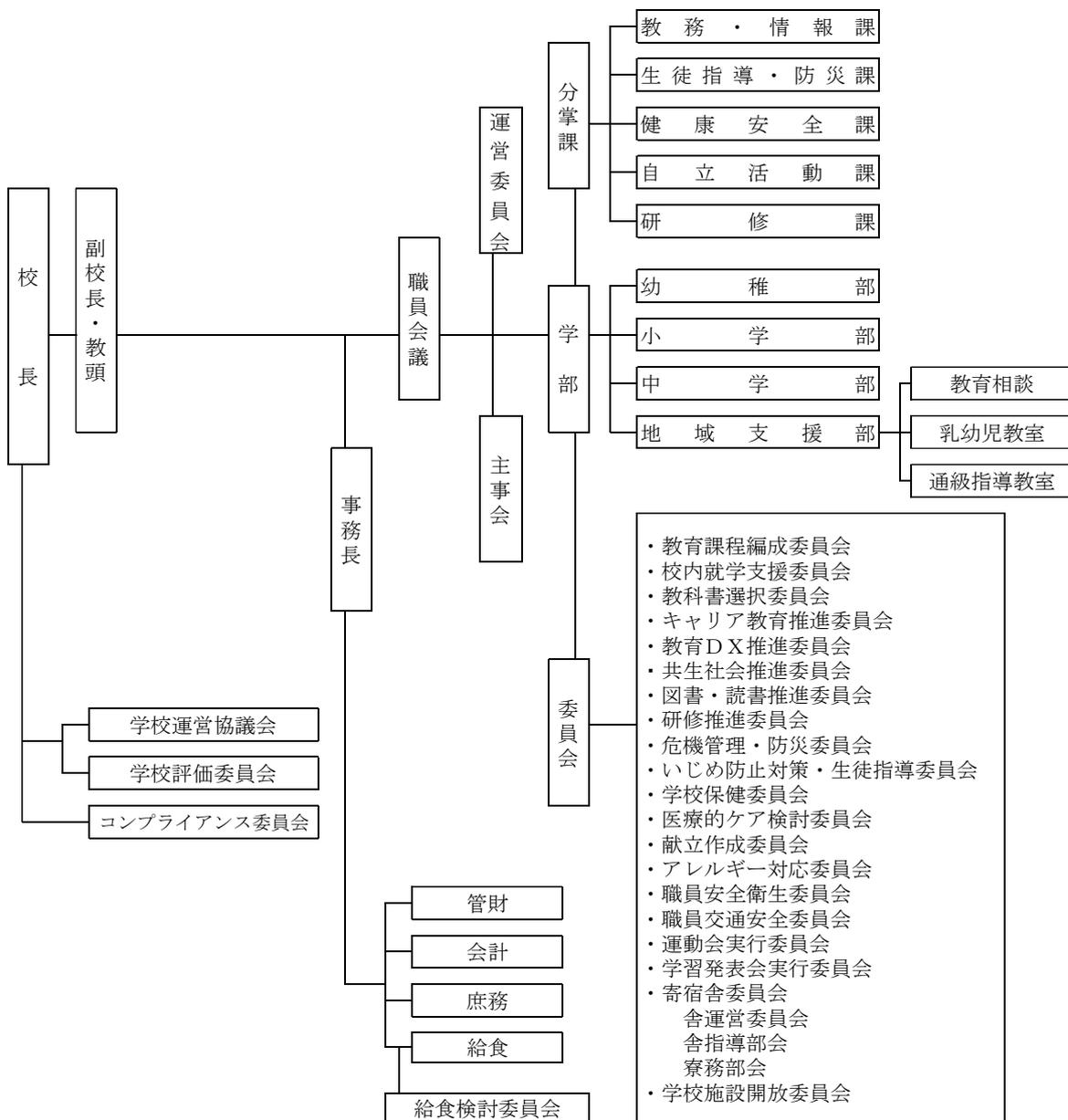
#### (1) 学校の沿革

大正	6.	6.	25	安倍郡安東村に私立静岡盲啞学校創立
	13.	4.	1	私立静岡盲啞学校を廃止し、私立静岡聾啞学校設立
昭和	8.	4.	1	静岡県立静岡盲啞学校（県立移管）
	9.	4.	1	静岡県立静岡聾啞学校を独立設置開校
	12.	5.	5	ヘレンケラー女史来校
	12.	11.	6	現在地（中村町251番地）に校舎新築移転
	23.	4.	1	就学義務制実施、静岡県立静岡聾学校に校名変更
	35.	3.	31	寄宿舎（2階建）工事完成
	36.	4.	1	幼稚部5歳児学級設置
	38.	4.	1	幼稚部4歳児学級設置
	42.	11.	25	創立50周年記念式典挙行
	44.	4.	1	重複障害学級設置
	44.	4.	10	相談室設置
	45.	4.	1	幼稚部3歳児学級設置
	46.	4.	1	聾学校高等部統合に伴い高等部生徒募集停止
	46.	5.	1	交流教育開始
	48.	3.	31	学則改正により高等部廃止
	48.	4.	1	幼稚部2歳児学級設置
	51.	4.	1	特殊教育教育課程研究指定校文部省指定
	52.	11.	5	創立60周年記念式典挙行
	53.	2.	28	校舎改築（第一期）工事完成
	53.	11.	15	校舎改築（第二期）工事完成
	54.	9.	11	体育館新築工事完成
	54.	12.	3	寄宿舎改修工事完成
	56.	2.	24	プール新設工事完成
	57.	12.	20	敷地1、493㎡買収
	62.	3.	31	運動場整備工事・体育館改修工事完成
	62.	6.	25	創立70周年記念式典挙行
	63.	12.	14	公共下水道接続等工事完成
平成	元	.10.	6	焼却炉改築工事完成
	元	.10.	21	寄宿舎スプリンクラー設置工事完成
	3.	4.	1	心身障害児適正就学推進研究校文部省指定
	4.	3.	6	体育館集団補聴器設置
	7.	9.	20	校舎外壁改修工事完成
	8.	4.	1	静岡県特殊教育（教育課程）研究指定校指定（～H9年度）
	8.	4.	19	特殊教育教育課程研究指定校文部省指定（～H9年度）
	9.	9.	30	学習棟耐震工事完了
	10.	1.	23	創立80周年記念式典挙行
	10.	9.	30	管理棟耐震工事完了

- 平成 14. 3. 11 静岡盲学校敷地内に静岡盲学校と静岡聾学校の寄宿舍を合築
15. 1. 31 静岡聾学校内寄宿舍解体工事完了
17. 4. 1 静岡聾学校通級指導教室及び川根通級指導教室の設置
20. 4. 1 静岡県立学校設置条例の改正により静岡県立静岡聴覚特別支援学校に  
校名変更
22. 8. 31 静岡聴覚特別支援学校太陽光発電設備工事完了
23. 3. 15 校舎北側駐車場整備工事完了
24. 3. 30 屋外トイレ建築工事完了
24. 3. 30 FM補聴器整備完了
25. 3. 15 災害用仮設トイレ設置工事完了
25. 4. 1 牧之原通級指導教室の設置
25. 4. 1 文部科学省特別支援学校（聴覚障害：特別支援教育に関する教育課程）研究指定（～H26年度）
27. 1. 27 蓄電池付太陽光発電設備設置工事完了
28. 4. 1 静岡県特別支援学校（言語活動を充実させ、論理的な思考力を高めるための授業づくり）研究指定（～H29年度:共同研究）  
静岡県特別支援学校（特別支援学校における地域のセンター的役割に関する研究）研究指定（～H29年度:単独研究）
29. 6. 17 2017年度～2019年度N I E実践指定校
29. 11. 10 創立100周年記念式典挙行
31. 3. 25 普通教室空調設備設置工事完了
31. 4. 1 特別支援学校における学校図書館活性化研究事業指定
- 令和 2. 4. 1 令和2、3年度特別支援学校におけるICTに関する研究指定
3. 1. 15 特別教室空調設備設置工事完了
3. 3. 26 トイレ洋式化工事完了

(2) 組織図

校務分掌表



2 目指す学校像

(1) 教育目標「学びをつなげる学校」

自己の障害への理解を促し、一人一人の可能性を最大限に伸ばし、心身の調和的発達を図るとともに豊かな言語力を育て、社会の一員として主体的に生きる人を育てる

<教育の柱>

○豊かな言語力 ○確かな学力 ○健やかな体 ○思いやりの心

(2) 目標具現化の柱

【安全・安心】健康で安全な生活と、安心をつなぐ学校

ア 生命の尊重と高い人権感覚による多様性と人格を認め合う集団づくり

イ 学校安全や心身の健康づくりの意識向上による自己管理能力の向上

【つなぐ学び】共生社会を生きる力につながる学びを進める学校

ウ ICTの有効活用による主体的学びの実現

エ 自分や他者との対話的学びと協働による深化した学びの実現

オ キャリア教育の視点で共生社会を生きる力につながる学びの実現

【信頼・連携】信頼関係を築きながらつながる学校

カ 教育相談及び早期支援と乳幼児教室の充実

キ 通級指導教室の指導の充実と啓発

ク 関係機関との情報共有及び相互支援の進展

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

【安全・安心】健康で安全な生活と、安心をつなぐ学校

取組目標	成果目標	達成状況 A B 評価の割合 ★：教職員 ☆：幼児・児童・ 生徒・保護者	評価	◎成果と●課題
ア 生命の尊重と高い人権感覚による多様性と人格を認め合う集団づくり				
一人一人の良さと人格を認め、多様性を尊重する思いやりの心の醸成	・自分の良さに気づき、互いを尊重しながら学校生活を送ることができる子 【幼児児童生徒・保護者・教職員AB95%】	A B ★90% ☆86%	B	◎定期的な学部や個々で振り返りを行う職員研修の実施、学校生活全般や学活等で互いを大事にする意識を促す子供たちとの活動によって、人権意識を醸成できた。 ●更に、「人権全体計画」を基に年間の指導場面を工夫しながら、コミュニケーション力を高め、相手の気持ちを理解できる子を目指す取組を行いたい。
イ 学校安全や心身の健康づくりの意識向上による自己管理能力の向上				
自分の命を守る防犯及び防災等安全教育の充実	・発災時等に、自分の命を自分で守るための行動がとれる子 【幼児児童生徒・保護者・教職員 AB95%】 ・訓練等で役割が分かり、学校安全の管理意識を高められた教職員【AB95%以上】	A B ★90% ☆82%  A B ★93%	B	◎予告無し訓練の実施など自ら考える場面を経験することで、子供たちが避難行動に慣れ、自分から行動できる様子が見られてきた。 ●更に防犯、突発的な発災への訓練の実施等、想定外の状況でも自身で考え行動できるような訓練の設定を工夫し、危機管理能力を高めた。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	◎成果と●課題
イ	健全な心と体の成長促進及び自己管理能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に親しんだり、友達とのつながりを感じたりした子 【幼児児童生徒・保護者・教員 AB80%】</li> <li>様々なリフレッシュ方法や健康法を知り、実践しようと思った子 【児童生徒・保護者・教員 AB80%】</li> </ul>	AB ★90% ☆91%  AB ★93% ☆59%	B	◎子供たち主導のスポーツデイの取組が、幼稚部から中学部までの子供同士の縦の関わりを促した。セルフマネジメントの方法について大人も含めた情報交換の取組により、必要感のある子供たちの物事への考え方の視点を広げることにつながった。 ●次年度は、運動に親しむことの視点にも力点を置きたい。

【つなぐ学び】共生社会を生きる力につながる学びを進める学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	◎成果と●課題
ウ	ICTの有効活用による主体的学びの実現				
	ICT活用による個別最適な学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した学びが、「分かる」「楽しい」につながっていると感じている子 【児童生徒・保護者・教員 AB90%】</li> </ul>	AB ★86% ☆77%	B	◎所管部署間の連携体制で、外部専門家を活用した授業や職員研修を実施することで、ICT活用に慣れ、楽しみながら学ぶことを経験できた。 ●ICT活用の良さを生かした実践により、協働的な学びを更に深める取組に広げていきたい。
エ	自分や他者との対話的学びと協働による深化した学びの実現				
	子供が楽しく対話し協働することで、資質・能力を身に付ける学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>夢中で学び、新しい知識を身に付けたり思考力や表現力が高まったりすることが楽しいと答える子 【幼児児童生徒・保護者・教員 AB90%】</li> </ul>	AB ★97% ☆82%	B	◎一人一授業、個別テーマ等の研修設定で教員の授業力向上を目指し、子供たちの学びを楽しむことにつながった。 ●県内3聾との連携を生かした授業など、協働的な学びの環境設定を工夫したい。
エ	自立活動の指導を通じた充実した聴覚障害教育の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活を通して豊かな言語力が身につけている子 【幼児児童生徒・保護者・教員 AB90%】</li> <li>自分の聞こえや補聴機器の自己管理等ができる子 【幼児児童生徒・保護者・教員 AB90%】</li> </ul>	AB ★100% ☆91%  AB ★90% ☆73%	B	◎教員研修を通して、子供との丁寧な言葉のやり取りの大切さを再認識し全職員で共通理解した。卒業した先輩たちから直接学ぶ場の設定は、自己発信が大切であることを子供たちが学ぶ場として有効であった。 ●子供たちの「伝えたい」「分かりたい」「聴き取りたい」というコミュニケーションへの意欲を生かした場面を捉えながら、言語力や聴能の力を育む工夫を行いたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	◎成果と●課題
オ	キャリア教育の視点で共生社会を生きる力につながる学びの実現				
	共生社会を生きる力につながるキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に自分の成長を感じたり、将来の自分について考えたりできる子 【幼児児童生徒・保護者・教員 AB90%】</li> <li>・学校づくりに参画する経験を楽しむ子 【児童生徒・保護者・教員 AB90%】</li> </ul>	A B ★90% ☆73%	B	◎「キャリアパスポート」を活用した交流及び共同学習、卒業生等と関わる取組で子供たち自身が将来のことや夢を語る場、「目指す姿」について自己評価を行うなど、自らを振り返る場をもつことで自身の成長を意識することにつながった。 ●発達段階に応じた具体的な「目指す姿」について、保護者とも共通理解し、家庭との連携で進めたい。
オ	ウェルビーイングの向上による教育活動活性化のための学校体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動にやりがいを感じ、自分らしく働いていると答える教職員 【AB90%以上】</li> <li>・教職員の「働き方改革」への取組を理解している保護者 【AB80%以上】</li> </ul>	A B ★90%	A	◎子供の目指す姿を成果目標に設定し、子供や保護者とも共通理解することは、教職員の業務の全てが子供の成長につながるというモチベーションを高めることにつながった。 ●専門家やボランティアなど、外部との連携体制の工夫で、更なる教育効果と業務改善を図りたい。

【信頼・連携】信頼関係を築きながらつながる学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	◎成果と●課題
カ	教育相談及び早期支援と乳幼児教室の充実				
	専門性を生かした教育相談及び乳幼児教室の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助言や支援を受けたことで相談内容が解決できたと答える相談者 【AB75%以上】</li> <li>・子供の成長がより楽しみになったと答える乳幼児教室保護者 【AB75%以上】</li> </ul>	A B ★93%	A	◎教育相談では幅広い年齢層の多様なニーズに複数の教員で対応した。乳幼児教室では、ケース会や訪問なども含め、在籍園、STと連携しながら関わることが、保護者に寄り添う対応につながった。 ●今後も複数の外部機関及び校内（他学部）との連携を取りながら対応できる教育相談体制をつくりたい。
キ	通級指導教室の指導の充実と啓発				
	在籍校とのつながりを大事にした通級指導教室の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に決めた目標に示した力が伸びたと答える通級児童生徒及びその保護者や在籍校担任 【AB90%以上】</li> </ul>	A B ★69% ☆92%	B	◎通級指導の取組として、「きこえのトリセツ」の作成や難聴理解授業の実施が、通級生が自己理解や自己表現の大切さを学ぶことに有効であることが分かった。 ●在籍校との連携体制の一層の強化が、個々の通級生の自己理解を深められる取組となる。つながる仕組みづくりの工夫も必要であると考え。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	◎成果と●課題
ク	関係機関との情報共有及び相互支援の進展 特別支援学校のセンター的機能の推進と充実及び関係機関との連携の強化	・校内や関係機関に支援に関する情報を発信できたと感じる本校教員 【AB90%以上】 ・支援に関する情報を得ることができたと感じる保護者や在籍校担任 【AB90%以上】	AB ★79%  AB ★72% ☆93%	B	◎外部機関から求められたニーズに応じた情報提供を行った。校内掲示板を活用した情報提供で校内共有を図った。 ●更に、校内で情報共有できる工夫や、支援関係者、関係機関等とつながるような情報発信を工夫したい。

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

【安全・安心】健康で安全な生活と、安心をつなぐ学校

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	生命の尊重と高い人権感覚による多様性と人格を認め合う集団づくり		
	一人一人の良さや人格を認め、多様性を尊重する思いやりの心の醸成	○聴覚障害者理解をテーマとした人権研修や人権教育の実践による人権感覚の高揚 ○「人権教育年間計画」に基づいた人権教育の振り返りと見直し	・互いの良さに気付き、自分も友達も大事にしながら学校生活を送ることができる子 【幼児児童生徒・保護者・教職員 AB90%】
イ	学校安全や心身の健康づくりの意識向上による自己管理能力の向上		
	自分の命を守る防犯及び防災等安全教育の充実	○様々な場面を想定した訓練による危機管理意識の向上	・訓練や学習をもとに、自分の命を自分で守るための考えをもち、行動する子 【幼児児童生徒・保護者・教員 AB90%】
イ	健全な心と体の成長促進及び自己管理能力の向上	○主体的に運動を楽しめる幼児児童生徒の育成 ○児童生徒の心身のセルフマネジメントの促進	・友達と一緒に身体を動かしたり、関わりをもったりする子 ・自分のことを深く知ることができる子 【児童生徒・保護者・教員 AB90%以上】

【つなぐ学び】共生社会を生きる力になる学びを進める学校

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ウ	ICTの有効活用による主体的学びの実現		
	ICT活用による個別最適な学びの実現	○児童生徒及び教員がICTを活用しやすい環境整備などの仕組みづくり ○児童生徒の個別の学びを深めるICTを活用した授業実践の推進	・ICTを活用した学びが、「分かる」「楽しい」と感じている子 【幼児児童生徒・保護者・教員 AB90%以上】

自分や他者との対話的学びと協働による深化した学びの実現			
エ	子供が楽しく対話し協働することで、資質・能力を身に付ける学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○OJTと主体的で個別最適な研修による教員の授業力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分で問いを見つける学びが楽しい」と答える子</li> <li>【幼児児童生徒・保護者・教員 AB90%以上】</li> </ul>
エ	自立活動の指導を通じた充実した聴覚障害教育の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「自立活動に関わる指導のめやす（コミュニケーション態度・聴覚活用）」を生かした聴覚障害教育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人との会話が楽しい」と答える子</li> <li>【幼児児童生徒・保護者・教員 AB90%以上】</li> </ul>
キャリア教育の視点で共生社会を生きる力につながる学びの実現			
オ	共生社会を生きる力につながるキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「キャリア教育の手引き」を基にした実践とその振り返りによるキャリアマインドの向上</li> <li>○地域ボランティアとの協働による交流活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「『交流及び共同学習』の積み重ねから得られる学びが楽しい」と答える子</li> <li>【幼児児童生徒・保護者・教員 AB80%以上】</li> </ul>
オ	ウェルビーイングの向上による教育活動活性化のための学校体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事務室との連携した教育活動の促進及び事務処理業務の効率化（総務事務集中化モデル事業の取組）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的に教育活動と事務業務の連携を図った」と答える教職員</li> <li>【AB80%以上】</li> </ul>

#### 【信頼・連携】信頼関係を築きながらつながる学校

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
カ	教育相談及び乳幼児教室の充実		
	校内外の専門性を生かした教育相談及び乳幼児教室の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ニーズに応じた情報の提供</li> <li>○専門家、関係機関との連携及び継続的な体制づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報等が得られ、安心して相談を受けられた教育相談利用者</li> <li>【AB80%】</li> </ul>
キ	通級指導教室の指導の充実と啓発		
	在籍校と連携した通級指導教室の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○通級生が、自分の聞こえの特徴や心の状態などについて自己理解を深めたり、主体的に必要な支援を求めたりすることができる指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解が深まり、在籍校の学校生活が充実していると答える通級児童生徒及び保護者と在籍校担任</li> <li>【AB80%】</li> </ul>
ク	関係機関との情報共有及び相互支援の進展		
	特別支援学校のセンター的機能の推進と充実及び関係機関との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内支援の充実</li> <li>○関係者、関係機関、3 聾とつながる情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「校内や関係機関、3 聾との連携を図りながら、センター的機能を発揮できている」と答える教職員</li> <li>【AB90%】</li> </ul>

4 監査対象期間における特色ある取組

年 度	取 組 概 要	成 果 及 び 課 題
令和 6 年度	自分の命を守る 防犯及び防災等 安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルを基に、防災・防犯訓練を実施した。また、防災倉庫の中身の確認や簡易トイレの設置方法の訓練などを行い、防災意識を高めた。</li> <li>・実際の災害等に合わせた危機管理マニュアルの随時見直し等を行った。</li> <li>・「校内事故・インシデント・ヒヤリハット報告書」での情報共有と原因分析による、エビデンスに基づく安全指導を実施した。</li> </ul>
	I C T 活用による 個別最適な学 びの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部で、積極的に iPad を使用して授業を行い、幼児児童生徒の個別最適な学びにつながる授業展開を行い、学力向上を目指した。</li> <li>・I C T 支援員に2ヶ月に1回程度来校して頂き、新たなホームページでの情報発信のため作成の助言や補聴器調整アプリの調整や助言を頂き、教員が、幼児児童生徒の補聴器管理を行った。</li> </ul>
	特別支援学校の センター的機能 の推進と充実及 び関係機関との 連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の新入社員研修や民生委員の研修、大学や、高校、中学の体験研修や学校見学を受け入れ、聴覚特別支援学校について理解を進めた。</li> <li>・難聴児支援講習会や中部地区保健センター巡回相談などを通して、聴覚障害者支援に関する情報を積極的に提供した。</li> <li>・乳幼児教育相談マネージャーを活用し、県立総合病院のS T との連携の強化をした。</li> </ul>
令和 7 年度	I C T 活用による 個別最適な学 びの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT支援員を活用し、小学部低学年児童にタブレット端末の使い方、小学部高学年児童、中学部生徒にネット安全安心講座などの授業支援と助言、教職員向けのアプリの使い方研修会を行う。</li> <li>・教員アンケートを実施し、I C T 活用のニーズの把握と活用方法や解決策の提案を行う。</li> </ul>
	共生社会を生き る力につながる キャリア教育の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリア教育の手引き」を活用した授業や幼児児童生徒支援の実践を行う。</li> <li>・交流先と目標等を共有し、協同的な活動を実践する。</li> <li>・「キャリアの視点から見た子ども達のあらわれ」の全教職員で共有し、子ども達への支援を行う。</li> </ul>
	特別支援学校の センター的機能 の推進と充実及 び関係機関との 連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級指導説明会、難聴児支援講習会、中部地区保健センター巡回訪問、高等学校との連携などを通して、聴覚障害者支援に関する情報を積極的に提供している。</li> <li>・連携コーディネーターを活用し、県立総合病院のS T との連携の強化や乳幼児教室、教育相談のO J T による支援の向上を図っている。</li> <li>・県内の聾学校と合同研修を行い、専門性の向上を図っている。</li> </ul>

## 5 教職員について

### (1) 異動状況

区分	校長	副校長	事務長	教諭	養護教諭	主査	主任	栄養士	主任技能員	小計	教諭(任)	教諭(臨)	主事(臨)	栄養士(臨)	会計年度任用職員	学校医等	小計	計
転出			1	1		1		1		4								4
退職				1					1	2	1	1	1	1	2		6	8
転入			1	2		1		1		5	1						1	6
新任											1				3		4	4
差引増減			0	0		0		0	-1	-1	1	-1	-1	-1	1		-1	-2

### (2) 現員数

(令和7年7月31日現在)

区分	校長	副校長	事務長	教諭	養護教諭	主査	主任	栄養士	主任技能員	小計	教諭(任)	教諭(臨)	主事(臨)	栄養士(臨)	会計年度任用職員	学校医等	小計	計
男		1		6						7					3	5	8	15
女	1		1	19	1	1	1	1		25	3	1		1			5	30
計	1	1	1	25	1	1	1	1		32	3	1		4	5	13	45	

### (3) 健康管理について

#### ア 令和6年度

- (ア) 健康診断の確実な受診と適切な事後処置の実施100%を推進した。
- (イ) 個人で週に1回以上、定時退勤日を設定し、健康の維持管理に配慮した。
- (ウ) 職場の健康づくり支援事業を実施し、ストレス軽減のためのアサーション（自己表現）トレーニングを学んだ。
- (エ) 職員安全衛生委員会を毎月1回行い、職員の心身の健康状態、安全な職場環境について共通理解、改善を図った。
- (オ) 毎月末に全職員で校舎内外の安全点検を行い、校内環境整備と維持管理を万全にした。

#### イ 令和7年度

- (ア) 健康診断の確実な受診と適切な事後処置の実施100%を推進している。
- (イ) 個人で週に1回以上、定時退勤日を設定し、健康の維持管理に配慮している。
- (ウ) 職場の健康づくり支援事業を実施し、ストレッチカードを使った自分の良い

ところについて知る機会を作った。

(エ) 職員安全衛生委員会を毎月1回行い、職員の心身の健康状態、安全な職場環境について共通理解、改善を図っている。

(オ) 毎月中旬に全職員で校舎内外の安全点検を行い、校内環境整備と維持管理を万全にしている。

(4) 教職員の研修について

ア 令和6年度

取組事項	研修内容	成果と課題
自分の思いを伝えあう子を目指して (幼稚園の取組実践)	学部教師間の共通理解	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修を通じて、子どもが主体的に活動できる環境を整えられた。ルーティンの活動に見通しをもって進めることで、子どもが自信をもち、積極的に取り組む姿勢が見られた。</li> <li>年齢や発達段階に応じた魅力ある教材を導入した。3歳児には生き物、5歳児には磁石といった教材を用いることで、子どもたちが夢中になり、自ら発言する姿を引き出せた。その際、気持ちの代弁や言葉の模倣といった支援を行うことの重要性を改めて共通理解した。</li> <li>子どもの気持ちに寄り添った言葉かけをすることで、子どもが安心して発言できる人的な環境を構築できた。子どもを取り巻く環境を整えることが、子どもの主体的な活動を支える上で不可欠であることが再認識された。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視覚的情報の効果的な活用について、発問や活動内容、子どもの気持ちを文字やイラストで視覚的に示すことで、子どもの理解が深まることがわかった。今後は、子どもの実態を適切に捉え、必要に応じて視覚的情報を活用していくことが課題である。</li> <li>自由度の高い活動における指導者の役割について、子どもの気持ちや思いに沿って活動を展開するには、教師が主導権を握り、活動の終わり方を想定しておくことが重要であることがわかった。子どもが「やりきった」と満足できるタイミングを見極め、想定した終わり方で活動を終えるスキルが求められる。</li> </ul>
	実態把握 (診断的評価)	
	授業研究(一人一授業研、全体研修年1回)	

取組事項	研修内容	成果と課題
		<ul style="list-style-type: none"> <li>柔軟な対応力と知識の引き出しを増やすことについて、子どもの自由な発想や気持ちに寄り添い、臨機応変に対応する力が求められる。タイミングを逃さずに適切な支援をするため、今後の研修などを通して知識や技術を増やしていくことが必要</li> </ul>
<p>「主体的に問題解決に取り組む、伝え合い学び合う授業づくり」～問いと学習課題をつなげる授業づくり～ (幼・小学部の取組実践)</p>	<p>実態把握(診断的評価))</p> <hr/> <p>授業研究(一人一授業研、全体研修年1回)</p>	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業と授業をつなげる工夫、特に前時までの学習内容の掲示や、「分からなかったこと」の言語化を次時につなげることが、児童から「問い」を引き出し、問題解決に主体的に取り組ませる上で有効な手立てであることを再認識した。</li> <li>教師の工夫により、児童が「分からなかった」ことから「もっと知りたい」という内発的な問いを持つようになり、主体的に学ぶ姿勢が見られるようになった。</li> <li>児童自身が決めた「聞く話す約束」を守ろうとする意識が向上し、高学年では自己評価と教師の評価がほぼ一致する傾向が見られた。</li> <li>児童アンケートや他学部との交流の場で、相手を見て話すことの大切さや、伝わるまで繰り返す粘り強い伝え合いの必要性を児童が認識し、自分の意見を深めようとする姿が見られた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師が答えを先に伝えず、まとめすぎず、一問一答にならない揺さぶりをかける問いかけや発問を工夫し、児童が自ら問題解決したくなるような授業展開を考える必要がある。</li> <li>授業の振り返り方法について学部内で共通理解を図り、振り返りから生まれた児童の「問い」を次の学習課題設定に活かすことで、より主体的な学習を促すことが求められる。</li> <li>児童同士や教師との雑談などの日頃のやり取りを楽しみ、児童の興味を広げられるような環境づくりが重要である。この中で、話のズレに自ら気づき、修正する力を個々のレベルに合わせて身に付けさせる必要がある。</li> </ul>

取組事項	研修内容	成果と課題
実態差がある集団での主体的な学びを実現する授業づくり ( 中学部の取組実践)	実態把握 ( 診断的評価)	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自分の生活や将来に活かせるよう、日常生活に即した内容や興味関心を刺激する課題提示を意識できた。これにより、生徒は学ぶ事柄を自分事として捉え、教科に対する見方や考え方もつことができた。</li> <li>・実態差がある集団においても主体的な学習を促すため、タブレットでの文字入力活用、課題量の調整、補助発問、生徒が教材を選択できる場面設定などの多様な支援方法を教師間で共通理解し、実践できた。</li> <li>・聴覚障害生徒への視覚情報支援として板書計画が重要であることを再確認した。目標や重要事項のチョーク色の統一、思考を深める掲示物の活用、手書きによる重要語の明記、論理を矢印や表で示すなど具体的な手法を共有し、授業に取り入れた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの情報や他者の考えを得やすい環境下で、情報が煩雑になり目標から逸れ、授業の目標とまとめにずれが生じる場面が見られた。教師が提示する目標が生徒の実態に合っているか、目標達成に繋がる指導かを精査する必要がある。</li> <li>・ICT機器はその手軽さから、真の理解に至っているかの判断が難しい。生徒による情報や意見の取捨選択の困難さや、情報が消えてしまうといった聴覚障害生徒特有の視覚情報提示の課題を克服する必要がある。</li> <li>・生徒の学力や理解度を見極めるため、「事柄の言語化」や「解き方の論理的な説明」といった思考力・説明力を評価の視点に取り入れることが助言された。指導案の表記や評価の仕方について、学部内で共通理解を図る必要がある。</li> <li>・生徒の学習行動 ( 問題を解くときなど) をつぶさに確認し、理解度を評価するため、教師は必要に応じてこまめに介入し、指導していく必要がある。</li> </ul>
	授業研究 ( 一人一授業研、全体研修年 1 回)	

取組事項	研修内容	成果と課題
<p>「自己理解を深め、発信力を高めるための取り組み」 ～チームによる実態把握を活かした授業づくり～ (通級生の取組実践)</p>	<p>実態把握（診断的評価）</p>	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例児童生徒のエピソード記録や「聞こえの発信力評価シート」に基づく多面的な話し合いにより、通級担当者全員で児童生徒のおおまかな実態や課題、目指す姿を共通理解できた。これにより、個に合わせたより良い指導内容や手立ての改善に繋がった。</li> <li>・在籍校訪問で音環境や他者との関わりを直接確認し、個別の支援・配慮について担任等に提案できた。また、アンケートや聞き取り情報から得た集団での様子や特性を、通級指導の学習内容や他の通級生への支援に反映できた。</li> <li>・病院の言語聴覚士との情報交換により、聞き取る力や聞こえの特性を正確に把握し、指導内容・教材の工夫ができた。スクールカウンセラーや補聴器店との連携により、友人関係の心理的な安定や補聴機器の安定した活用に繋げることができた。</li> <li>・高学年への「自分の将来に向けた学習」やグループ学習の実施により、難聴の自己理解が深まり、学習に意欲的に取り組む姿勢が見られた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在籍校担任の協力が不可欠であることから、通級担当教師・保護者・在籍校担任などの関係者間で指導支援の方向性を共通理解し、通級生の日常生活での表れを見取れるようにする必要がある。</li> <li>・学習の「適時性」「必然性」「必要性」が生徒の主体的な学びに繋がるため、実生活に活かすことができる学習課題や活動を設定することが課題である。在籍校や家庭から情報を得て、支援関係者からの情報を活かした授業作りが求められる。</li> <li>・将来豊かな生活を送るために必要な、社会自立のためのスキル指導が不十分であった。話が伝わらない時や分からない時に、相手に状況を伝えるスキルや、自分にとって分かりやすいコミュニケーション手段を選択し依頼するスキルを身に付けさせるための単元計画や授業展開を計画・実施していく必要がある。</li> </ul>
	<p>授業研究（一人一授業研、全体研修年1回）</p>	

取組事項	研修内容	成果と課題
<p>思いを伝え あう親子を 目指して～ 家庭に寄り 添った支援 の充実～ (乳幼児の 取組実践)</p>	乳幼児教室の運営について	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児教室の運営計画を作成し、担当者間で目標やねらいの共通理解を図れた。これを保護者に分かりやすく説明することで、保護者の積極的な取り組みや、子どもに寄り添った関わりを促せた。</li> <li>・家庭で取り入れやすい題材設定や活動後の振り返り、保護者の関わりの方の良かった点の称賛を行うことで、保護者自身の自信を高め、子どもの様子や成長に気づけるようになった。</li> <li>・保護者や子どもの実態に合わせて保護者学習会の内容を設定したため、保護者にとって今必要なこととして捉えられ、意欲的に取り組むことに繋がった。</li> <li>・「園訪問」「家庭訪問」「言語聴覚士との情報交換」を通じた多角的な情報収集により、子どもの理解を深め、指導の改善に活かした。訪問の視点を記録表に記載することで、継続的な訪問活動に繋げることができた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な家庭状況（障害受容の程度、仕事と子育ての両立、親の有無など）に合わせて、保護者の気持ちに寄り添いつつも、実態を的確に捉え、柔軟に対応できる専門性の向上が不可欠である。</li> <li>・保護者が支援内容の必要感を感じ、主体的に関わろうと思えるよう、保護者の実態に応じた説明の仕方を工夫する必要がある。</li> <li>・家庭を支える他機関との繋がりをさらに充実させ、より多角的に家庭や子どもの実態を捉え、連携して支援できる方法を模索していく必要がある。</li> <li>・今年度作成した計画を継続的に見直し、改善を行うとともに、子どもの実態に応じた授業づくりと保護者に合わせた学習会の実施を継続していく必要がある。</li> </ul>
	保護者支援	
	外部との連携	
	講師研修	

イ 令和7年度

(ア) 全体

取組事項	研修内容
一人ひとりが「わかる」「できる」を目指し、生き生きと学び合う子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業改善</li> <li>・ 教師の学び                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学部テーマ研修</li> <li>(2) メンターグループの活用</li> </ul> </li> <li>・ 3 聾学校の交流</li> </ul>

(イ) 幼稚部

取組事項	研修内容
自分の思いを伝え合う子を目指して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学部教師間の共通理解</li> <li>・ 実態把握（言葉の発達段階表、語彙表の保護者チェック、日々の行動観察、絵日記、情報収集）</li> <li>・ 授業研究（一人一授業研、全体研修年1回）</li> </ul>

(ウ) 小学部

取組事項	研修内容
主体的に問題解決に取り組む、伝え合い学び合う授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学部教師間の共通理解（問いをもつにはどんな力が必要か）</li> <li>・ 実態把握（ツールの活用）</li> <li>・ 授業研究（一人一授業研、全体研修年1回）</li> </ul>

(エ) 中学部

取組事項	研修内容
具体と抽象を行き来しながら、思考をつなげ広げるための授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実態把握（診断的評価）</li> <li>・ 授業研究（一人一授業研、全体研修年1回）</li> <li>・ 事例生徒についての研修</li> </ul>

(オ) 地域支援部

取組事項	研修内容
通級生が自分らしく生活するための指導・支援の充実～連携を活かした通級指導～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在籍校との連携を活かした年間指導計画づくり</li> <li>・ 年間指導計画を活用した通級ブロック研修</li> <li>・ 講師招聘研修会</li> </ul>
思いを伝えあう親子を目指して～保護者が主体的に関わろうとする支援～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実態把握</li> <li>・ 教員間で資料の共有</li> <li>・ 日々の授業での振り返りシートの活用</li> <li>・ 外部との連携</li> <li>・ 講師招聘研修</li> <li>・ 乳幼児学級経営ハンドブックの作成</li> </ul>

## 6 防災対策について

### (1) 令和6年度の防災訓練実施状況

月日	内容
4月30日	避難訓練①（地震）、避難経路の確認
6月10日	防犯訓練①、不審者侵入時の安全確保
6月24日～28日	避難訓練②（地震予告なしⅠ）
7月25日	職員防災研修
8月26日	避難訓練③（引渡し訓練）
9月18日	防犯訓練②
11月1日	災害用伝言ダイヤル訓練（学校→家庭）
11月27日	避難訓練④（火災）
12月10日	非常食体験①（学校）
12月中旬	防災教育推進のための連絡会議（紙面開催）
1月20日～24日	避難訓練⑤（地震・予告なしⅡ）

### (2) 令和7年度の防災訓練実施状況

月日	内容
4月30日	避難訓練①（地震）、避難経路の確認
6月9日	防犯訓練①、不審者侵入時の安全確保
6月23日～27日	避難訓練②（地震予告なしⅠ）
7月30日	職員防災研修（マンホールトイレ設置訓練）
8月28日	避難訓練③（引渡し訓練）
9月1日～9月5日	災害用伝言ダイヤル訓練（家庭→学校）
10月23日	防犯訓練②
11月14日	避難訓練①（火災）
12月10日	非常食体験①（学校）
12月中旬	防災教育推進のための連絡会議
1月20日～24日	避難訓練⑤（地震・予告なしⅡ）

7 学校開放について

本校では、地域の人々に積極的に学校施設を開放している。

(1) 令和6年度利用状況

事業名	施設名	利用延日数	利用延人数	利用者負担金
県立学校 施設開放	体育館	93 日	1,734 人	電気料実費 9,691 円
	運動場	63 日	2,094 人	

(2) 令和7年度利用状況 (令和7年7月31日現在)

事業名	施設名	利用延日数	利用延人数	利用者負担金
県立学校 施設開放	体育館	56 日	876 人	電気料実費 4,916 円
	運動場	25 日	645 人	

## 事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
学校教育に関すること	教育基本法(第1条、第2条) 学校教育法(第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、 第76条、第77条、第78条、第79条、第80条、第82条) 学校教育法施行規則 学校保健安全法(第5条) 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則
学校の管理・運営に関すること	学校教育法(第137条) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(第33条) 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法(第21条、第22条) いじめ防止対策推進法(第8条、第15条、第16条) 学校保健安全法(第15条、第23条、第27条) 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法(第3条、第4条) 静岡県手話言語条例 静岡県教育委員会処務規程 静岡県教育委員会事務決裁規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律(第2条、第3条) 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護及準要保護児童 生徒援助費補助金交付要綱 要保護及準要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就 学奨励費補助金交付要綱 学校給食法(第1条、第2条、第3条、第4条) 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律 (第1条、第2条、第3条)

## 学校施設の概要

### 1 面積及び所有区分

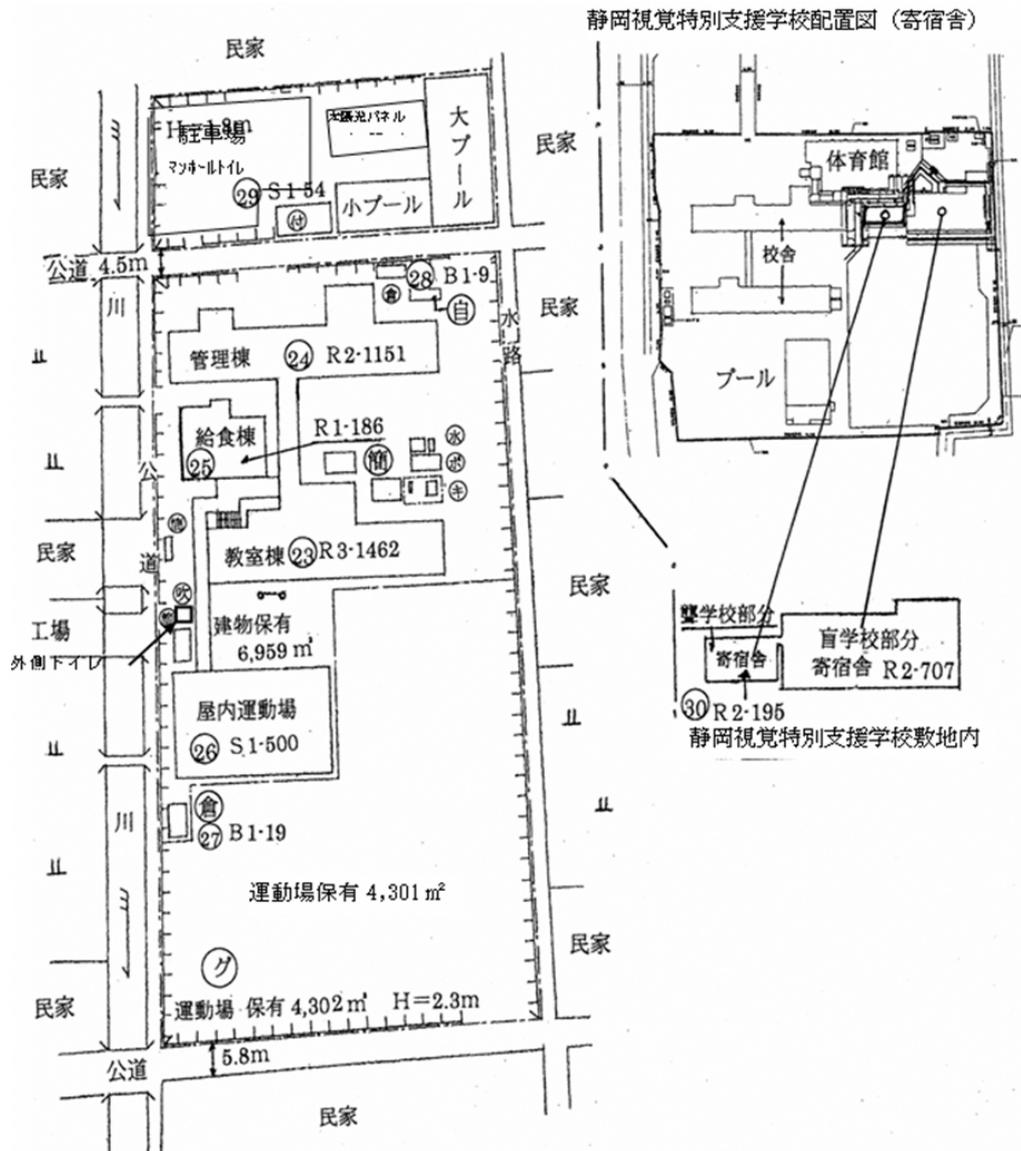
(令和7年7月31日現在)

区 分	面 積 m <sup>2</sup>	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m <sup>2</sup>	国 有 m <sup>2</sup>	市町村有 m <sup>2</sup>	後援会有 m <sup>2</sup>	民 有 m <sup>2</sup>	
学 校 敷 地	11,368.38	11,368.38					
内 訳	校舎敷地	6,959.69	6,959.69				
	運動場敷地	4,301.06	4,301.06				
	そ の 他 の 敷 地	107.63	107.63				静岡視覚特別 支援学校敷地 寄宿舍
校 舎	建 1,444.52	1,444.52					
	延 2,798.91	2,798.91					
体 育 館	建 534.25	534.25					
	延 500.25	500.25					
その他の建物	建 205.72	205.72					プール附属棟 倉庫他
	延 205.72	205.72					
寄 宿 舎	建 107.63	107.63					
	延 194.60	194.60					
プ ー ル	(大)20×8m (小)6×4.5m	20×8m 6×4.5m					

- (注) 1 本表は、学校において調製する。  
 2 「実習地」は現況により記載し、現況が台帳地目と異なる場合は、「摘要」欄に台帳地目を記載する。  
 3 「校舎」のうち県有以外のものは「摘要」欄に内容を記載する。  
 4 職員住宅のうち公立学校共済組合有のものは「摘要」欄に記載する。

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	11,368.38㎡	2,798.91㎡	4,301.06㎡
県平均	19,266.88㎡	6,361.36㎡	5,302.07㎡

(注) 1 本表は、学校において調製する。

2 当図には、「1 学校施設の概要」に記載してある学校敷地及び施設等の配置を記載する。

# 在籍生徒調

(令和7年7月31日現在)

学年	学部別 区分		幼稚部			小学部			中学部			合計		
			男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	合計
1年 (2歳)	入学者		2	1	3	2	1	3	1	1	2	5	3	8
	増加 減少													
	現在		2	1	3	2	1	3	1	1	2	5	3	8
2年 (3歳)	入学者		0	2	2	2	2	4	0	0	0	2	4	6
	増加 減少													
	2年時当初		0	2	2	2	2	4	0	0	0	2	4	6
	増加 減少													
	現在		0	2	2	2	2	4	0	0	0	2	4	6
3年 (4歳)	入学者		1	2	3	0	0	0	4	3	7	5	5	10
	増加 減少													
	2年時当初		1	1	2	0	0	0	3	2	5	4	3	7
	増加 減少													
	3年時当初		1	1	2	0	0	0	3	2	5	4	3	7
	増加 減少													
	現在		1	1	2	0	0	0	3	2	5	4	3	7
4年 (5歳)	入学者		1	1	2	0	0	0				1	1	2
	増加 減少													
	2年時当初		0	1	1	0	1	1				0	2	2
	増加 減少													
	3年時当初		0	1	1	0	1	1				0	2	2
	増加 減少													
	4年時当初		0	1	1	0	1	1				0	2	2
	増加 減少													
	現在		1	1	2	0	1	1				1	2	3
5年	入学者					0	1	1				0	1	1
	増加 減少													
	2年時当初					0	1	1				0	1	1
	増加 減少													
	3年時当初					0	1	1				0	1	1
	増加 減少													
	4年時当初					0	1	1				0	1	1
	増加 減少													
	現在					0	1	1				0	1	1
6年	入学者					0	2	2				0	2	2
	増加 減少													
	2年時当初					0	2	2				0	2	2
	増加 減少													
	3年時当初					0	2	2				0	2	2
	増加 減少													
	4年時当初					0	2	2				0	2	2
	増加 減少													
	5年時当初					0	2	2				0	2	2
	増加 減少													
	6年時当初					0	1	1				0	1	1
増加 減少														
現在					0	1	1				0	1	1	
合計			4	5	9	4	6	10	4	3	7	12	14	26

## 卒業生の動向調

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
進学者	普通高校				
	特別支援学校高等部	1			1
	高等部専攻科				
	四年制大学				
	短期大学				
	専修・各種学校				
	公共職業訓練校				
小 計		1			1
施設等 入所者	障害者支援施設等				
	他の施設				
	小 計	0			0
就職者					
在宅療養等					
その他					
計		1			1

教育委員会 6

## 生徒の状況

### 1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年7月31日現在) (単位:人)

市町名	静岡市	焼津市	藤枝市	島田市	御前崎市	吉田町	合 計
生徒数	19	2	2	1	1	1	26
構成比%	73.2	7.7	7.7	3.8	3.8	3.8	100.0%

(2) 通学方法 (令和7年7月31日現在) (単位:人)

区 分	自家用車 (送迎)	バス	バス・自家 用車(送迎)	バス・ 電車	合 計
生徒数	17	4	2	3	26
構成比%	65.4	15.4	7.7	11.5	100.0%

2 部（クラブ）の加入状況（中学部）（令和7年7月31日現在）（単位：人）

区 分		運 動 部	文 化 部	未加入者	計
部(クラブ)数		1	0	0	1
男子	1 年	1		0	1
	2 年	0		0	0
	3 年	3		0	3
	計 (A)	4		0	4
	構成比	100.0%		0%	100.0%
女子	1 年	1		0	1
	2 年	0		0	0
	3 年	2		0	2
	計 (B)	3		0	3
	構成比	100.0%		0%	100.0%
合計	(A + B)	7		0	7
	構成比	100.0%		0%	100.0%

3 障害別児童生徒数（令和7年7月31日現在）（単位：人）

区 分		1 年 (2 歳)	2 年 (3 歳)	3 年 (4 歳)	4 年 (5 歳)	5 年	6 年	合 計	学級数
幼稚園部	単一障害	3	2	2	2			9	4
	重複障害								
	—								
合 計		3	2	2	2			9	4
小学部	単一障害	3	4	0	1	1	1	10	5
	重複障害								
	肢体重複								
合 計		3	4	0	1	1	1	10	5
中学部	単一障害	2	0	5				7	2
	重複障害								
	肢体重複								
合 計		2	0	5				7	2

4 起因疾患別児童生徒数（令和7年7月31日現在）（単位：人）

区 分	胎生期	周生期	後天性	原因不明	その他	計
幼稚園部				9		9
小学部				10		10
中学部				7		7
計				26		26

## 職 員 調

(令和7年7月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘 要
1	校長	佐藤 容子		□□□	□□□	□□□
2	副校長	大橋 幸彦		□□□	□□□	□□□
3	事務長	高田 真理		□□□	□□□	□□□
4	教諭	吉尾 靖子	□□□	□□□	□□□	□□□
5	教諭	松永 訓幸	□□□	□□□	□□□	□□□
6	教諭	望月 文子	□□□	□□□	□□□	□□□
7	教諭	赤堀 友子	□□□	□□□	□□□	□□□
8	教諭	杉山 実	□□□	□□□	□□□	□□□
9	教諭	本間 直子	□□□	□□□	□□□	□□□
10	教諭	石垣 麻弥	□□□	□□□	□□□	□□□
11	教諭	中舘 明日香	□□□	□□□	□□□	□□□
12	教諭	植松 舞	□□□	□□□	□□□	□□□
13	教諭	長島 美喜子	□□□	□□□	□□□	□□□
14	教諭	勝又 一步	□□□	□□□	□□□	□□□
15	教諭	杉浦 かおる	□□□	□□□	□□□	□□□
16	教諭	藤田 もえぎ	□□□	□□□	□□□	□□□
17	教諭	久永 恭子	□□□	□□□	□□□	□□□
18	教諭	奥間 沙優里	□□□	□□□	□□□	□□□
19	教諭	江崎 智弥	□□□	□□□	□□□	□□□
20	教諭	伊久美 香奈	□□□	□□□	□□□	□□□
21	教諭	芦澤 春菜	□□□	□□□	□□□	□□□
22	教諭	相澤 侑子	□□□	□□□	□□□	□□□
23	教諭	永野 要	□□□	□□□	□□□	□□□

24	教諭	堀住綾乃	□□□	□□□	□□□	□□□
25	教諭	濱田慶彦	□□□	□□□	□□□	□□□
26	教諭	瀧戸美保	□□□	□□□	□□□	□□□
27	教諭	桐田幸生	□□□	□□□	□□□	□□□
28	教諭	松元和巴	□□□	□□□	□□□	□□□
29	養護教諭	栗田裕恵	□□□	□□□	□□□	□□□
30	栄養士	齊藤朋美	□□□	□□□	□□□	□□□
31	主査	白鳥純美世	□□□	□□□	□□□	□□□
32	主任	郡有沙	□□□	□□□	□□□	□□□
平均年数					□□□	

職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘	要
教諭(任)	田辺三菜子	□□□	□□□	□□□	□□□	
教諭(任)	芹澤庸子	□□□	□□□	□□□	□□□	
教諭(任)	青島夕美子	□□□	□□□	□□□	□□□	
教諭(臨)	望月美穂	□□□	□□□	□□□	□□□	
会計年度任用職員	飯塚知之	□□□	□□□	□□□	□□□	
会計年度任用職員	山田陽子	□□□	□□□	□□□		
会計年度任用職員	望月政志	□□□	□□□	□□□		
会計年度任用職員	川村俊夫	□□□	□□□	□□□		
学校医	飯室優	□□□	□□□	□□□		
学校医	川村洋行	□□□	□□□	□□□		
学校医	高木明	□□□	□□□	□□□		
学校医	山田徹	□□□	□□□	□□□		
薬剤師	細木富士夫	□□□	□□□	□□□		

## 職員の年齢調

(令和7年7月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	2人	
30歳以上40歳未満	15人	
40歳以上50歳未満	6人	
50歳以上56歳未満	4人	
56歳以上61歳未満	4人	
61歳以上	1人	再任用
計	32人	平均年齢 42.5 歳

## 健康管理

### 1 令和6年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 31 人
	職員数 33 人
受 診 率	100 %
県平均受診率	100 %

(1) 未受診の理由  
□□□□ □人

### 2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってもよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	人
C 2		要経過観察	人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	9(9)人
D 2		要経過観察	15(15)人
D 3		医 療 不 要	8(6)人
区 分 者 計			32(30)人
未区分者数			0人
合 計			32(30)人

(1) 管理区分A～C2該当者  
に対する措置状況

□□□□

(2) 未区分の理由

ア □□□□ □人  
イ □□□□ □人  
ウ □□□□ □人  
エ □□□□ □人

## 預 金 調

(令和7年7月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
静岡銀行 馬淵支店	無利息型 普通預金	0029530	静岡県立静岡聴覚特別支援学校 資金前渡者 佐藤容子	0	給与等
静岡銀行 馬淵支店	無利息型 普通預金	0550194	(自振口) 静岡県立静岡聴覚特別支援学校 資金前渡者 佐藤容子	0	資金前渡(自振口) 水道代等口座振替口座
静岡銀行 馬淵支店	無利息型 普通預金	0153062	静岡聴覚特別支援学校就学奨励費 代理受領者 佐藤容子	0	就学奨励費代理受領口座
残 高 合 計				0	

## 郵 券 等 受 払 調

(令和7年7月31日現在)

(単位:枚、円)

区分	種類	令和6年度						令和7年度						摘要		
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出			差引現在高	
		数枚	金額	数枚	金額	数枚	金額	数枚	金額	数枚	金額	数枚	金額		数枚	金額
郵券	10円 切手	16	160	0	0	16	160	0	0	0	0	0	0	0	0	渉外連絡 文書/ 返信用
	110円 切手	0	0	4	440	4	440	0	0	3	330	3	330	0	0	
	レター パック プラス 520	0	0	3	1,560	3	1,560	0	0	0	0	0	0	0	0	
	レター パック プラス 600	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1,800	1	600	2	1,200	
計		160	2,000	2,160	2,160	0	2,130	930	1,200							

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					5年度	6年度	左のうち、 5年度からの繰越額分
(12)	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		78,980	
委託料	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費		11,792,500	
計					11,376,156	11,871,480	0
(14)	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費			
工事請負費							
計					1,661,000	0	0
(16)							
公有財産購入費							
計					0	0	0
(17)	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		320,650	
備品購入費							
計					342,100	320,650	0
(18)	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		42,500	
負担金、補助及び交付金							
計					56,530	42,500	0
(21)							
補償、補填及び賠償金							
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年7月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、6年度からの繰越額分
(12)	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	0	
委託料	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	2,935,449	
計					2,935,449	0
(14)						
工事請負費						
計					0	0
(16)						
公有財産購入費						
計					0	0
(17)	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	0	
備品購入費						
計					0	0
(18)	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	32,700	
負担金、補助及び交付金						
計					32,700	0
(21)						
補償、補填及び賠償金						
計					0	0

委託料に関する調

(令和6年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 給食業務	(株)ユアーズ静岡	円 36,081,226	円 35,200,000	円 15,950	円 35,215,950	一般	5.8.14 ～ 8.7.31	6.5.31 978,125 6.6.28 978,125 6.7.31 978,125 6.8.30 978,125 6.9.30 978,125 6.10.31 978,125 6.11.29 978,125 6.12.23 978,125 7.1.31 978,125 7.2.28 978,125 7.3.31 978,125 7.4.10 978,125 (小計)	(7,822,496)	給食調理業務準備・調理・清掃・配膳等	5長期
2	産業廃棄物収集・運搬及び処分(グリストラップ)	静和エンバイロメント(株)	55,000	55,000	0	55,000	随契	6.6.6 ～ 6.10.31	6.8.23	55,000	グリストラップ汚泥収集運搬処分	随契1号(少額)
3	産業廃棄物収集・運搬及び処分(混合)	(株)総合美装ワタナベ	44,330	44,330	0	44,330	随契	6.7.23 ～ 6.9.30	6.9.4	44,330	混合廃棄物収集運搬処分	随契1号(少額)
4	産業廃棄物収集・運搬及び処分(混合)	(株)総合美装ワタナベ	34,650	34,650	0	34,650	随契	7.1.14 ～ 7.3.28	7.3.6	34,650	混合廃棄物収集運搬処分	随契1号(少額)
事務関係計		4件								11,871,480		
合計		4件								11,871,480		
参考1	警備業務	エスピトーム(株)		11,088,000	42,900	11,130,900		1.10.1 ～ 6.9.30			施設警備業務	駿河総合高校
2	警備業務	エスピトーム(株)		12,999,360	0	12,999,360		6.10.1 ～ 11.9.30			施設警備業務	駿河総合高校
3	自家用電気工作物保安管理業務	静岡ビル保善(株)		2,626,800	▲52,800	2,574,000		6.4.1 ～ 7.3.31			自家用電気工作物保安業務	静岡西高校
4	消防用設備等保守点検業務	旭産業(株)		4,070,000	0	4,070,000		6.4.1 ～ 7.3.31			消防用設備点検業務	中央特別支援学校
5	可燃物収集運搬処分業務	(株)静岡清掃企業		運搬15,950円/回 処分11.0円/kg	0	運搬15,950円/回 処分11.0円/kg		6.4.5 ～ 7.3.31			可燃物収集運搬処分業務	静岡農業高校
6	プール浄化装置保守点検業務	大学産業(株)		739,200	0	739,200		6.4.15 ～ 6.11.15			プール浄化装置保守点検業務	静岡西高校
7	ガスヒートポンプ点検業務	(株)ユアーズ静岡		2,409,000	0	2,409,000		6.5.22 ～ 7.3.31			ガスヒートポンプ点検業務	静岡高校
8	防鼠防虫業務	(株)総合美装ワタナベ		347,000	0	347,000		6.7.8 ～ 7.3.31			厨房等防鼠防虫業務	清水特別支援学校
9	建築基準法第12条に基づく定期点検業務委託	(同)石橋剛設計事務所		3,850,000	0	3,850,000		6.8.13 ～ 7.1.31			建築物及び建築設備の定期点検業務	静岡商業高校
計		9件										

## 委託料に関する調

(令和7年度)  
(令和7年7月31日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
	(事務関係)		円	円	円	円				円		
1	給食業務	(株)ユアーズ静岡	36,081,226	35,200,000	15,950	35,215,950	一般	5.8.14 ～ 8.7.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 (小計)	(19,559,996) 978,483 978,483 978,483 2,935,449	給食調理業務準備・調理・清掃・配膳等	5長期
2	産業廃棄物収集・運搬及び処分(グリストラップ汚泥)	静和エンバイロメント(株)	57,200	57,200	0	57,200	随契	7.6.20 ～ 7.8.29		0	混合廃棄物収集運搬処分	随契1号(少額)
事務関係計		2件								2,935,449		
合計		2件								2,935,449		
参考1	警備業務	エスピトーム(株)		12,999,360	0	12,999,360		6.10.1 ～ 11.9.30			施設警備業務	駿河総合高校
2	自家用電気工作物保安管理業務	静岡ビル保善(株)		2,714,360	0	2,714,360		7.4.1 ～ 8.3.31			自家用電気工作物保安業務	静岡西高校
3	消防用設備等保守点検業務	旭産業(株)		4,125,000	0	4,125,000		7.4.1 ～ 8.3.31			消防用設備点検業務	中央特別支援学校
4	可燃物収集運搬処分業務	(株)静岡清掃企業		運搬18,000円/回 処分15.0円/kg	0	運搬18,000円/回 処分15.0円/kg		7.4.7 ～ 8.3.31			可燃物収集運搬処分業務	静岡農業高校
5	ガスヒートポンプ点検業務	(株)ユアーズ静岡		2,791,800	0	2,791,800		7.5.26 ～ 8.3.31			ガスヒートポンプ点検業務	静岡高校
6	防鼠防虫業務	(株)総合美装ワタナベ		440,000	0	440,000		7.7.7 ～ 8.3.31			厨房等防鼠防虫業務	清水特別支援学校
	計	6件										

## 負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国聾学校教頭会会費	全国聾学校教頭会	会則による	聴覚障害教育の振興	4,000	6.6.28
2	関東地区聾学校長会費	関東地区聾学校長会	規約による	聴覚障害教育の振興	5,000	6.7.12
3	全国聾学校長会会費	全国聾学校長会	規約による	聴覚障害教育の振興	18,000	6.7.31
4	第140回全国聾学校長会研究協議会参加費	全国聾学校長会	開催要項による	聴覚障害教育の情報交換	2,000	6.8.9
5	第58回全日本聾教育研究大会(東京大会)参加費	第58回全日本聾教育研究大会(東京大会)実行委員会	開催要項による	聴覚障害教育の情報交換	10,000	6.8.14
6	「家庭教育を考える部会2024年東京」参加費	全国ろう学校PTA連合会	開催要項による	地域と学校間の連携	1,500	6.8.26
7	関東地区聾学校教頭会費	関東地区聾学校教頭会	会則による	聴覚障害教育の振興	2,000	6.12.5
計		7件			42,500	

## 負担金支出調

(令和7年度)  
(令和7年7月31日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習会受講料	日本産業廃棄物処理振興センター	通知による	産業廃棄物管理	13,200	7.5.21
2	全国聾学校長会会費	全国聾学校長会	規約による	聴覚障害教育の振興	18,000	7.7.11
3	全国聾学校長会研究協議会(長崎大会)参加費	全国聾学校長会	開催要項による	聴覚障害教育の情報交換	1,500	7.7.30
計		3件			32,700	

## 公有財産調

(令和6年度)

区分	令和6年3月31日 現在		増		減		令和7年3月31日 現在		摘要
	数量又は面積	台帳 価格	数量又は面積	台帳 価格	数量又は面積	台帳 価格	数量又は面積	台帳 価格	
行政財産		千円 1,494,694		千円 5,527		千円 17,200		千円 1,483,021	
土地	m <sup>2</sup> 11,260.75	1,373,811					m <sup>2</sup> 11,260.75	1,373,811	
立木竹	本 27	236					本 27	236	
建物	m <sup>2</sup> <u>2,292.12</u> 3,699.48	38,447				7,938	m <sup>2</sup> <u>2,292.12</u> 3,699.48	30,509	
工作物	個 88	82,200	1	5,527		9,262	個 89	78,465	
公有財産に準ず るもの		200						200	
電話加入権	件 5	200					件 5	200	

# 公有財産調

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

区分	令和7年3月31日 現在		増		減		令和7年7月31日 現在		摘要
	数量又は面積	台帳 価格	数量又は面積	台帳 価格	数量又は面積	台帳 価格	数量又は面積	台帳 価格	
行政財産	/	千円 1,483,021	/	千円	/	千円 4	/	千円 1,483,017	
土地	m <sup>2</sup> 11,260.75	1,373,811					m <sup>2</sup> 11,260.75	1,373,811	
立木竹	本 27	236			1	4	本 26	232	
建物	m <sup>2</sup> <u>2,292.12</u> 3,699.48	30,509					m <sup>2</sup> <u>2,292.12</u> 3,699.48	30,509	
工作物	個 89	78,465					個 89	78,465	
公有財産に準ずるもの	/	200	/		/		/	200	
電話加入権	件 5	200					件 5	200	

## 借地借家等調

(令和7年7月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地目		数量又 は面積	借料		契約 期間	所有者又は契約者 氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	敷地	静岡市駿河区 曲金6-1-5	学校 敷地	学校 敷地	107.63 m <sup>2</sup>	円 0	円 0	7.4.1 ～ 10.3.31	静岡県立静岡視覚特 別支援学校長	寄宿舎敷地
2	土地	道路 敷地	静岡市駿河区 中村町251			20.00m	0	0	7.4.1 ～ 12.3.31	静岡市長	送電線設置
土地計						107.63 m <sup>2</sup> 20.00m	/	0	/	/	/

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)  
(令和7年7月31日現在)

区分	事業名 又は 契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)									
				2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
長期 継続 契約	給食業務 委託契約	給食調理・ 配膳業務 (契約日) 5.8.7	円 35,215,950	円	円	円	円 7,822,496	円 11,737,500	円 11,741,802	円 3,914,152	円	円	円
	静岡県立 静岡聴覚 特別支援 学校外4 校電子複 写機貸借 契約	電子複写機 貸借 (契約日) 2.4.1	円 9,078,810	円 1,769,930	円 1,827,220	円 1,827,220	円 1,827,220	円 1,827,220					
	静岡県立 静岡聴覚 特別支援 学校外4 校電子複 写機貸借 契約	電子複写機 貸借 (契約日) 7.4.1	円 7,319,400						円 1,417,416	円 1,475,496	円 1,475,496	円 1,475,496	円 1,475,496
	カラーA 3複合機 貸借契約	カラー複合 機貸借 (契約日) 2.4.1	円 541,200	円 108,240	円 108,240	円 108,240	円 108,240	円 108,240					
	カラーA 3複合機 貸借契約	カラー複合 機貸借 (契約日) 7.4.1	円 415,800						円 83,160	円 83,160	円 83,160	円 83,160	円 83,160

## 行政財産貸付・使用許可調

(令和7年7月31日現在)

整理 番号	区分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	静岡市駿河区 中村町251・ 243	学校 敷地	学校 敷地	本柱3本	円 1,500	円 4,500	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	NTT西日本(株)静 岡支店長	電柱設 置
2	土地	学校敷地	静岡市駿河区 中村町251・ 243	学校 敷地	学校 敷地	本柱3本 支線3条	1,500	9,000	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	中部電力パワーグ リッド(株)静岡支 社配電建設グルー プ長	電柱設 置
3	土地	学校敷地	静岡市駿河区 中村町251	学校 敷地	学校 敷地	26.77㎡		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	静岡市長	防災倉 庫設置
4	土地	学校敷地	静岡市駿河区 中村町251	学校 敷地	学校 敷地	3.91㎡		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	静岡市長	防災同 報無線
5	建物	事務所建	静岡市駿河区 中村町251	管理棟	鉄筋コンク リート造2 階建	0.03㎡		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	静岡市長	防災同 報無線 受信機
6	土地	学校敷地	静岡市駿河区 中村町251	学校 敷地	学校 敷地	1.69㎡		免除	5. 4. 1 ～ 8. 3. 31	静岡市長	消防施 設設置
7	土地	学校敷地	静岡市駿河区 中村町251	学校 敷地	学校 敷地	6.01㎡		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	静岡市長	静岡市 道路敷 地
8	土地	学校敷地	静岡市駿河区 中村町251・ 243	学校 敷地	学校 敷地	鋼管柱 3本	1,500	4,500	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	(株)トコちゃんね る静岡代表取締役 社長	電柱設 置
9	土地	学校敷地	静岡市駿河区 中村町251	学校 敷地	学校 敷地	0.81㎡		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	静岡豊学校PTA 会長	胸像設 置
10	土地	学校敷地	静岡市駿河区 中村町251	学校 敷地	学校 敷地	0.34㎡		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	静岡市長	カーブ ミラー 設置
11	土地	学校敷地	静岡市駿河区 中村町243	学校 敷地	学校 敷地	3.30㎡		免除	6. 4. 1 ～ 9. 3. 31	静岡県くらし・環 境部水利用課長	地下水 観測施 設設置

整理 番号	区分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年額			
12	土地	学校敷地	静岡市駿河区 中村町243	学校 敷地	花壇	122.63㎡		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	静岡聾学校PTA 会長	花壇設 置
13	土地	学校敷地	静岡市駿河区 中村町251	学校 敷地	学校 敷地	3.40㎡		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	静岡市長	防災同 報無線
合計								18,000			

# 主 要 備 品 調

(令和7年7月31日現在)

整理 番号	区 分		品 名・規 格	利 用 状 況	購 入 年 月	購 入 金 額
	大・中	小				
1	1-13	調 理 器 具	真空冷却機 C M J - 20 E	給食調理 毎 日 年間200日	平成15年3月	3,129,000 円
2	4- 1	耳鼻咽喉科用機器	補聴器特性検査設備 リオンL H - 11	補聴器点検 週 2 日 年間100日	平成9年3月	2,678,000
3	4- 2	機 能 検 査 機 器	補聴器特性測定器 F O N I X 7000	補聴器点検 週 2 日 年間100日	平成19年3月	2,488,500
4	9 -1	美術工芸品	絵画 憧れ 50号	来 客 用 毎 日 年間200日	平成29年11月	2,160,000
5	4- 1	耳鼻咽喉科用機器	ワイヤレス集団補聴器 リオンG H - 05	体育館訓練 週 2 日 年間100日	平成4年3月	2,101,200
6	9 -1	美術工芸品	絵画樹霊そのII 100号	来 客 用 毎 日 年間200日	平成30年1月	1,800,000
7	2- 1	パーソナルコンピ ュータ(一式)	パーソナルコンピ ュータ(一式)	授 業 用 毎 日 年間200日	平成29年1月	1,674,000
8	4- 2	機 能 検 査 機 器	言語聴力検査装置 プレイシステムP L 72 スピーカーCOR付SP71	聴力検査 週 3 日 年間120日	昭和59年11月	1,630,000
9	4- 1	耳鼻咽喉科用機器	オージオメーター インサートイヤホンI	聴力検査 毎 日 年間200日	令和5年3月	1,522,620
10	4- 1	耳鼻咽喉科用機器	オージオメーター M E - 170	聴力検査 毎 日 年間200日	平成19年3月	1,512,000
11	1-13	食品食器洗浄機	食品洗浄機 タニコーT D W D 60	給食調理 毎 日 年間200日	平成11年1月	1,365,000
12	4- 2	機 能 検 査 機 器	オージオメーター リオンR S - 30	聴力検査 週 3 日 年間120日	昭和62年3月	1,040,000
13	2- 3	音 響 再 生 機 器	フラットループアンプ リオンG H - 41D	児童生徒指導 週 2 日 年間100日	平成17年8月	945,062
14	10-12	室外競技用器具	平衡感覚訓練用設備 スベリ台・チェーン・ ネットクライミング 他	屋外訓練 毎 日 年間200日	昭和58年11月	900,000
15	4- 1	耳鼻咽喉科用機器	オージオメーター A A 76	聴力検査 週 3 日 年間120日	平成15年3月	892,500
16	2- 1	その他の情報処理 機器	校内L A Nサーバー 校内L A N周辺機器一式	校内LAN用 毎 日 年間240日	平成13年3月	861,300
17	4- 1	耳鼻咽喉科用機器	オージオメーター (インサートイヤホン付) A D 229e	聴力検査 週 3 日 年間120日	平成22年3月	834,750
18	4- 1	耳鼻咽喉科用機器	オージオメーター リオンA A - 66D	補聴器点検 週 2 日 年間100日	平成8年3月	813,700
19	2- 1	その他の情報処理 機器	校内L A Nサーバー ネットワークサーバ等機器一式	校内LAN用 毎 日 年間240日	平成21年7月	793,800
20	5-99	試験実験機器	ドラフトチェンバー ヤガミ YD-1	理科実験用 年数回 年間 2 日	昭和53年12月	730,000